

創立記念式典挨拶

中学高等学校長 立石 良寛

「地上にもともとみちはない。歩く人が多くなれば道もできるのだ」

これは、今から丁度百年前、中国の民衆を開明したいとの強い思いで日本に学んだ中国人作家魯迅の「故郷」という著書の結びに述べられている言葉です。

「地上にもともとみちはない。歩く人が多くなれば道もできるのだ」

本学園の創立者藤井曾太郎先生が1904年に盈進商業実務学校を創設されたときには、117名の生徒が集まりました。年齢は12才から22才まで様々でした。

翌年第1回の卒業式が行われ、2年生5名に卒業証書が渡されました。その第1号の卒業証書が資料室に展示されています。翌年は34名の卒業生となりました。こうして、福山の地で2校目の学校である盈進の歩みが始まったわけです。

当時は、生徒の皆さんが現在目にし利用するものは全て存在しなかった時代です。

交通・通信機関、建築物など全てそうです。福山で電灯が事業として営業され始めたのは、盈進が設立された6年後の1910年だそうです。

日本の産業や工業はヨーロッパやアメリカからは大きく遅れ、国力も弱く、日本は必死で欧米に追いつこうと、国を挙げて富国強兵への道をまっしぐらに進んでいた時代でした。

10年前には、清国と戦争を行い、本校が設立された年には眠れる獅子と恐れられていたロシアとの戦争を始めたばかりでした。

こうした日本の状況のなかで、藤井曾太郎先生は、「国家を発展させるためには、産業経済を発展させなければならない」と、有能な商業人を実社会に送り出すために、学校設立を決意され、深津小学校校長、培遠高等学校校長、など27年間の教員生活に終止符を打ち、50才でその志を実行に移されたのです。

育った環境も住む場所も違う若者達が盈進という学び舎に集い、時間と空間を共有し、人生で最も多感な少年青年期に共に学び、友情を育み、連帯の絆を深めてきました。

こうして皆さんの後ろには今日まで25,325人が歩いてできた長い時間という道が脈々と続いているのです。

これから先の道は、ここにいる私たち、教育に情熱を燃やし日夜努力を続けている先生達、学校の経営や運営に従事している人たち、そして何よりも日々熱心に学園生活を送っている君たちが作っていくのです。

「地上にもともとみちはない。歩く人が多くなれば道もできるのだ」

藤井曾太郎先生のように、時代に先駆け、新しい道を切り開こうとする人たちに励ます、何と静かで力強い言葉ではありませんか。

志を高く掲げ、未来に向かってしっかりと歩いていきましょう。

102年の創立記念の日に皆さんと共に、創立者の労苦を偲び、先人の歩かれた長い道を振り返りつつ、学校の発展を目指す決意を新たにしたいと思います。

そして、本日お忙しいなか列席いただきましたご来賓の方々へ衷心より感謝を申し上げ校長としての挨拶といたします。

2006年(平成18年)11月30日